



安心できる介護・納得できる介護保険・信頼できる制度の実現

NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会

発行人 梶 宏

事務所 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809

TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp



<https://npokaigo.or.jp/>

かかわる会会報誌からの抜粋です。

介護保険の25年を振りかえる ～誰もが安心して使える制度をめざして～

第144回
研修会
報告

日時：6月22日（日） 13:30～16:30
会場：ひと・まち交流館 京都 3階 第5会議室
講師：井上ひろみ さん
（社会福祉法人七野会 理事長）
参加者： 26 名



「介護保険制度の25年を総括せよ」というお題は、どう考えても無茶ぶりである。この紆余曲折、課題山積の複雑な制度を1時間あまりで話せるものではない。

ところが、その難題を井上ひろみさんは、的確に、しかもソフトな語り口調でこなしてしまわれた。ご自身の経験から得た、制度とケアと経営という3つの視座が、複雑なこの課題を立体的にみせてくれたのだと思う。ここでは、一部しか紹介できないが、かかわる会の会員は講演動画を youtube で視聴することが可能。ぜひ見てほしい。（URL は事務局まで）

●制度の始まりは希望と戸惑いの中で

2000年に介護保険制度が始まったとき、私はケアマネジャーとして現場に立っていました。すべてが新しく、請求の仕組みもケアプランの立て方も手探りでしたが、「介護の社会化」や「利用者の自己決定」といった理念には確かな希望を感じていました。

ただ、現場では、利用者さんから「保険料を払っているのに、なぜさらに負担が必要なのか」と指摘されるなど、制度の矛盾に直面して困ったこともあります。制度の理念と現実のギャップは、最初からあったように思います。

●サービスが届かなくなっている

25年が経ち、制度は変化しましたが、現場から見ると「使いにくい制度」になってきたと感じます。保険料や利用者負担は増え、給付は縮小されています。とくに補足給付が厳しくなり、「お金がないから施設を出なければならない」というケースも見られるようになりました。

本来なら「必要な人が、必要なサービスを、必要なだけ」使える制度であるべきですが、今は「使いたくても使えない」「我慢している」人が確実に増えています。制度の形だけが整っていても、実際に使えなければ意味がありません。

●加算制度と経営のジレンマ

事業所としては加算を取らないと経営が成り立ちませんが、それを取ると利用者さんの自己負担が上がる。この矛盾に、私たちは日々悩まされています。「前と同じサービスなのに、なぜ300円高くなるの?」と聞かれたとき、制度の仕組みを一から説明しても納得は得られません。

職員を雇うためには処遇改善加算が不可欠です。でも、その仕組みを説明しながら、「ごめんね」と心の中で謝っているのが、今の私たちの現状です。

●ヘルパーが集まらない現実

深刻なのが人材不足です。特に訪問介護のヘルパーは本当に集まりません。紹介業者に30万、40万と払ってようやく採用できても、1ヶ月で辞められてしまうこともあります。処遇改善をしても、コンビニのバイトとほとんど変わらない給与では、若い人がこの仕事に魅力を感じるのは難しいのが現実です。



●テクノロジーにはできない「人の介護」

コロナ禍で ICT 機器や介護ロボットを導入しましたが、やはり「人の目」「人の手」にはかなわないと感じました。ある夜、寂しくてナースコールを繰り返す女性がいました。一緒にお茶を飲んで少し話ただけで、安心して休んでくださいました。

介護とは、こういう一人ひとりとの関わりからこそ意味があるのだと思います。テクノロジーは補完的なものであって、人を減らすための手段にはなりません。

●利用者にも職員にも希望のある制度を

私たちの施設では、重度の心不全を抱える利用者さんが「野球を見に行きたい」と願われたことがありました。職員たちが一生懸命準備し、炎天下の中、短時間の外出を実現させました。帰ってきたその方が「楽しかった、また行きたい」と言われたとき、現場の私たちも胸が熱くなりました。

制度は「使う側」だけでなく、「支える側」にとっても希望が持てるものであってほしいと、私は願っています。だからこそ、制度設計の出発点には、いつも現場の声があるべきだと強く思っています。

【参加者アンケートより】

- ・施設の現場の中からのお話しで、臨場感のある状況を聞かせていただくことができ、とてもわかりやすいご講演でした。講師はやさしいすてきな笑顔でお話しされてましたが、ゆっくり考えると 25 年目の今、とても厳しい状況にあると感じました。
- ・介護保険制度が始まる前後の状況も含めて、現場から見た 25 年間の変化を簡潔にお話しいただき理解が深まりました。利用者本位と「経営」のはざまで悩まれ、しかし利用者の願いに寄り添う努力されていることに頭が下がります。
- ・山科区の介護者の会で「介護保険が使いにくくなっている」と聴き、京都新聞朝刊の案内を見て参加しました。講師の井上さまの、現場と経営との経験を交えての話で、介護保険の25年の断面を見ることが出来たように思います。

(正木隆之+chatGPT 記)